

日本は自然災害の多い国です。地震、津波、火山の噴火、豪雨による水害、雪崩、日常的に我が国のどこかで災害が起こっています。いつ、私たちに降りかかってくるかは予想もつきませんが備えはいつも必要です。しかし、そういう国だからこそ四季の移り変わりに感動し、花々の美しさにとりし、山海の恵みに舌鼓みを打ち、温泉に癒され、満天の星空に目をうばわれ、雪山の神々しさに畏敬の念を抱くのです。物事には必ず表裏があります。悪い面を見て嘆くばかりでは生きている意味が薄れます。悪い面には適切な備えをして、良い面を満喫しましょう。この美しい国を次の世代に伝えることが、私たちに与えられた課題だと思っています。平和な世の中をいかに維持して守り抜いていくか、大きな試練がこの先に待ち受けています。正しいことを正々堂々と言える世の中を作っていきます。



### [最近目立つ病気]

いわゆる夏風邪が流行中です。夏風邪とはその名の通り夏に流行する風邪です。ほとんどがエンテロウイルス属によるもので、突然の高熱ではじまり、2日前後で解熱します。急激な体温上昇により熱性痙攣を起こす乳幼児もいます。また、発疹を伴うこともあります。流行中の手足口病もエンテロウイルス属のウイルスが原因です。

アデノウイルス感染症、溶連菌感染症、RSウイルス感染症（以前は冬季に流行）が散発しています。水痘（みずぼうそう）や流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）も一部の地域で流行がみられます。とびひ、虫刺され、あせも等の皮膚の問題も目立ちます。エアコンによると思われる長びく咳もあります。

### [手足口病]

手足口病 (hand, foot, and mouth disease: HFMD) は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症です。乳幼児を中心として夏季に流行します。手足口病の病原ウイルスは主にコクサッキーウイルス A16 (CA16)、A6 (CA6)、エンテロウイルス 71 (EV71) であり、コクサッキーウイルス A10 (CA10) などによっても引き起こされます。基本的には数日の内に治癒する予後良好の疾患です。しかしときに髄膜炎、稀ですが小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症などを引き起こすことがあります。感染経路は主として飛沫感染、接触感染です。予防策としては、手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。

近年、手足口病の報告数は、年によって大きく異なり、2011年、2013年、2015年は報告数が多い年でした。また、手足口病の患者さんから検出されたウイルスも年によって異なっています。過去5年間で主に検出されたウイルスは、2012年にはEV71およびCA16、2013年はCA6およびEV71、2014年はCA16およびEV71、2015年はCA6およびCA16、2016年はCA6でした。2017年に最も多く検出されているウイルスもCA6であり、ウイルス検出報告158件中、CA6

が79件(50%)と半数を占めています。近年のCA6による手足口病では、従来の手足口病における症状と比較して、CA16やEV71症例より水疱が大きいことや、手足口病発症後、数週間後に爪脱落が起こる症例(爪甲脱落症)が報告されています。

全身状態が安定していれば、登校(園)は可能ですが、症状が消失した後も2~4週間にわたり便などからウイルスが排泄されます。流行期の保育園や幼稚園などの乳幼児施設においては、手洗いの励行と排泄物の適正な処理、またタオルを共用しないなどの感染予防対策が重要となります。

(国立感染症研究所ホームページより)

### [ヒアリについて]

南米大陸原産のハチ目(膜翅目)・アリ科・フタフシアリ亜科に属するアリの一種。世界の侵略的外来種ワースト100選定種で、特定外来生物に指定されています。英語名は“Red imported fire ant”。

主にアルカロイド系の毒と強力な針を持ちますが、人間が刺されても死ぬことはまれで、痛み・かゆみ等の軽度の症状や、体質によりアレルギー反応や蕁麻疹等の重い症状が出る場合もあります。命の危険があるのは、アレルギー症状の中でも特にアナフィラキシーショックが起きる場合で死亡することもあります。

症状として、軽度のものは痛み・かゆみ、中度になると蕁麻疹、重度になると数分から数十分で息苦しさ・声がれ・めまい・激しい動悸などが起こり、進行すると意識を失うこともあります。重度の症状の場合は、即時型のアレルギー反応のアナフィラキシーである疑いが強く放置すると死亡することもあります。

刺された場合、20~30分程度、安静にし、体調の変化がないか注意します。重度の症状が見られるときは、救急車を要請した上で、「アリに刺されたこと」「アナフィラキシーの疑い」を伝えます。アナフィラキシーを起こす危険のある人は、前もって医師と相談のうえでアドレナリン自己注射薬エピペンを用意しておくよいです。中度までの症状なら抗ヒスタミン剤の内服薬で対処できま

す。(ウィキペディアより)

### [金沢市の乳幼児健康診断]

金沢市では平成29年度から2歳児健診と3歳児健診の時期が変更になりました。

まず、対象年齢は2歳児健診は2歳4~9ヶ月(従来は2歳0~5ヶ月)、3歳児健診は3歳6ヶ月(従来は3歳0~2ヶ月)に引き上げられます。新体制からの健診対象者は、2歳児健診は平成27年2月生まれから、3歳児健診は平成26年2月生まれからとなります。

変更の理由は、3歳児健診を3歳6ヶ月に行うことにより、発育・発達・視力の見極めがより確実となり療育や支援につなげることが出来ることです。特に視力検査についてはランドルト環を使用した検査が可能となり検査の精度が向上します。2歳児健診は3歳児健診の期間の変更に伴うもので、1歳半健診との間隔も考慮して決められました。

おしらせ



☆大手町の夜間急病診療所 (Tel:222-0099) では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は、8/17、8/31、9/5、9/10、9/24、10/15の予定です。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン(おたふくかぜ・インフルエンザ・B型肝炎ワクチン)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

